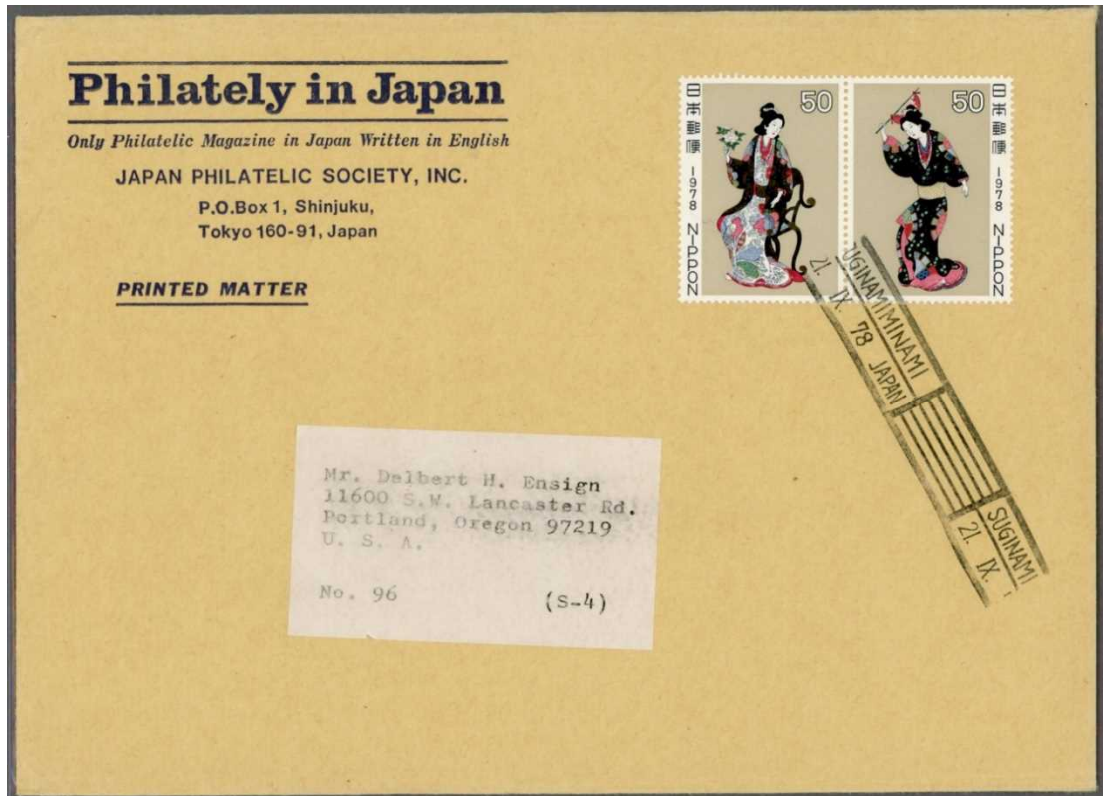


## 50円連刷時代の趣味週間切手貼り印刷物船便

永吉 秀夫



2倍重量船便印刷物(50g) SUGINAMIMINAMI 1978.9.21 → 米国

1ページに続いて2種連刷時代の趣味週間貼り外信便ですが、こちらは50円時期の「本当のペア貼り」です。会報297号で私製航空書簡とともに紹介した1976年「彦根屏風」貼りと同じ印刷物船便で、今回は1978年「寛文美人図」貼りです。この時期の船便扱いの外信印刷物便基本料金は60円(20gまで)ですが、印刷物便は重量増となりがちです。ご覧のようにJPSの英文郵趣誌を納めた封筒で、20gを超えて100円料金となったものです。

297号の品は「X'mas Card」や「Sea Mail」のゴム印表示が魅力的ですが、消印がイマイチでした。やや不鮮明な上に、封筒との割り印が不十分です。それに対して今回の紹介品は、杉並南局の欧文ローラー印が超鮮明に押されています。大型封筒の外信便の消印としては、理想的なものと言えます。

記念切手の使用例収集では、すべての切手のすべての種別のカバーを集めていくのは大変です。財政的な問題というより、収納スペースの問題で行き詰まります。

趣味週間切手のようなシリーズ切手の場合は、例えば「50円連刷時期」というように区分して、これらについては該当する数種の切手からどれか1つを代表として選んでリーフに整理、という手があります。しかしその場合、297号の品と今回の品のどちらが代表選手としてふさわしいか、悩ましい選択を迫られます。小さいサイズの封筒であれば2点一緒にリーフ貼りすることもできますが、このサイズではそれも無理ですね。